

なし黒星病

【学名：*Venturia nashicola*】



写真1 幼果の病斑



写真2 病斑部の裂果



写真3 葉柄の病斑

【被害と発生生態】

- ・発生部位…主に果実，葉，葉柄，芽・果そう基部
- ・発生時期…4～7月，9～10月
- ・発生好適条件…開花直前から開花後2週間までに気温20℃前後で，雨が多いと感染しやすくなります。主要な品種の中では「幸水」のみ果実肥大後期も感染，発病しやすい特徴があります。

【見分け方】

- ・果実，葉，葉柄に，黒色すす状の病斑を形成します（写真1，3）。
- ・果実の病斑部は，裂果や落果することもあります（写真2）。
- ・葉裏では，夏～秋に薄く墨を塗ったような病斑を形成します（秋型病斑）。

【対策】

- ・落葉は翌年の伝染源となるため，ほ場外へ持ち出して土中に深く埋めるなど適切に処分してください。
- ・発病した部位は見つけ次第除去し，落葉と同様に適切に処分してください。
- ・薬剤散布は，芽鱗片が緩みかけた頃，開花始期，満開直後，満開10日後，梅雨時期に実施してください。また，翌年の伝染源となる芽鱗片への感染を防ぐため，収穫終了後にも薬剤散布を実施しましょう。